

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

※ 「1 自己評価及び外部評価結果」を評価機関から受領した時点で、3「サービス評価の実施と活用状況(振り返り)」と併せて作成します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	21	入居者同士の会話の中で、思い込みや受け取り方の違い等から話が纏れ、職員が仲介に入るが、納得して頂けない場合がある。時には孤立に近い状態になることもある。	<ul style="list-style-type: none"> ・きちんと納得して頂けるよう説明する。 ・話が広まってしまったら、周りの人に不快な思いをさせないよう仲裁に入る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の関わり方の見直し、工夫 ・入居者のストレスへの対応(ドライブなど) ・情報を共有し、統一した関わり方に努め入居者同士の混乱等を防ぐ 	12ヶ月
2	36	一人ひとりの人格やプライバシーを尊重しなければいけないのに、できていない時がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の思いを十分に傾聴し理解する。 ・プライバシーの徹底を図り、職員間での気配りを心掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミーティング時の話し合い ・職員間での情報の共有 ・仕事中、職員同士注意又話し合い ・言葉に注意する 	12ヶ月
3	49	ドライブ等の外出については満足して頂けている様子であるが、外出先はほとんど職員が決められている。また入居者ひとりひとりの馴染みの場所周辺への外出も実施してみたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の希望が叶えられるように支援する。 ・外出先は常にマナーにならないよう心掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外出先での写真を撮る。それをもとに入居者に決められるようにする。 ・普段からコミュニケーションを大切にし、なにげない一言に耳を傾け、馴染みの場所に連れて行けるよう支援する。 	12ヶ月
4	37	規律ある生活の中で、あたりまえのように接していないか、本人の思いを引き出すことができているか、振り返りながら関わる必要がある。	一日の生活の中で、できる限り本人の希望、意志表示しやすいような支援ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・意思表示が難しい方、判断が困難な方に対して言葉だけでなく、写真や物を見せて決めてもらう。 	6ヶ月
5	34	急変、事故発生時の対応について、内・外部研修を行ったり、マニュアルも作成されているが、いざという時の対応に昼夜問わず不安がある。	職員一人ひとりが落ち着いて対応し、万一の時にも入居者が安心していられるよう努める。	研修後各自復習等をし、いかなる状況でも対応できるよう頭に叩き込む。急変時を見ていた他入居者のアフターフォローも忘れずにし、不安な気持ちを取り除く。	3ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。なお、挿入した際は、印字状態を必ず確認して下さい。

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

※ 「1 自己評価及び外部評価結果」を評価機関から受領した時点で、3「サービス評価の実施と活用状況(振り返り)」と併せて作成します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	ミーティング時などでも議題に上げ、言葉掛けや言葉遣い、落ち着いた態度について、話し合っているものの日にちが経つと馴れ合いが生じてしまい、言葉掛けや言葉遣いが乱れてしまう。	一人ひとり職員の意識を高め、マンネリ化や馴れ合いによる言葉掛けや言葉遣いの乱れにならないように注意し合えるような環境づくりを再構築する。	言葉掛けや言葉遣いで乱れてきた時は、すぐに注意し職員一人ひとりの意識が薄れないようにする。また、ミーティング時などでもきちんと話し合いマンネリ化や馴れ合いによるケアにならないように注意する。	1ヶ月
2	21	新しい利用者の方が入り、利用者同士の関係を把握しトラブルが起きないように回避しているものの、些細な言葉のやりとりから大きな口論になってしまうことがある。	常に職員が状況把握に努めトラブルがあった際は場所を変え仲裁とそのフォローを職員間で連携して行う。利用者同士の関係が良好になるように、些細なことでも職員間で情報の共有を図り口論にならないように努める。	業務日誌や申し送りノートを利用し状況を詳細に記入し把握するとともにトラブルになった場合、周囲のフォローも合わせて職員間で連携して行う。	1ヶ月
3	49	ドライブ等は運転の出来る職員がいる時に限られてしまい職員主導の外出になってしまうことが多い。また、利用者のADL低下により全員での外出が少なかったり特定の利用者のみでの外出が多くなっている。	特定の利用者のみでの外出にならないように利用者の意見を聞き特定の利用者のみでの外出にならないように配慮する。	通院時や活動時など、利用者との個別外出をしたり、意見を取り入れるなど職員主導の外出にならないように気をつける。	1ヶ月
4	18	日々の生活の中で本人の持っている知恵や知識を引き出せるような言葉掛けをしているがうまく自分の意見や思っている事を口に出せない利用者の方もおり、利用者の特性や心情を理解するまでに至っていない。	職員全員が利用者の特性や心情を理解出来るように日々の生活の中での出来事や気づきに目を向けられるようにする。	業務日誌や申し送りノートを利用し状況を詳細に記入し把握することで全職員が利用者の特性や心情を理解出来るようにする。	1ヶ月
5	34	救急法などの研修は受けていたり、マニュアルはあるものの、いざケガや急変した際などきちんと対応が出来るか不安が残る。	ケガや急変時に正しい判断や行動が起こせるように応急手当の方法や連絡網の確認を再確認する。	赤十字による講習会だけでなくミーティング時でも、話し合い応急手当の方法を忘れないようにする。	3ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。なお、挿入した際は、印字状態を必ず確認して下さい。

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

※ 「1 自己評価及び外部評価結果」を評価機関から受領した時点で、3「サービス評価の実施と活用状況(振り返り)」と併せて作成します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	プライバシーを損ねない言葉掛けや対応を心掛けているが、介助の必要な入居者が増えトイレ誘導等介助が重なった場合は出来ていないこともあり、一人ひとりの人格を尊重し合えているとはいえない。	入居者のプライバシーの尊重を常に心がけ、職員間で連携を取り入居者個人の尊厳を守る対応を行う。	・職員、一人ひとりが心にゆとりを持ち相互に声掛けし連携を取る。 ・ミーティング時に話し方について話し合う場を持つ。 ・職員同士で話し方について注意し合う。	
2	38	入居者の希望に沿って支援しようとする、健康的な規律ある生活が送れない場合もある。そのため規律優先になってしまう事が多い。	入居者の方の希望を傾聴し、健康・体調管理も含め本人の思いを汲み取り楽しく生活出来る様支援する。	・家族の方に入居前の生活のペースを再度聞き取りを行う。 ・入居者一人ひとりによって生活のペースが違う為、その人にあった生活が送れるよう計画書の見直しを行う。	
3	41	一人ひとりの健康状態に合わせ食事量・状態の調整や、水分摂取の取り組みを行っているが、拒否が有り必要量摂取して頂けない場合がある。	日々の生活や自由献立で本人の好みを知り、拒否される要因を探る事で摂取を促し健康を維持し穏やかに過ごす事が出来る。	・本人の好む(摂取できる)ものを提供、又は検討しそれに伴うデメリット(糖分・塩分過多等)を本人、家族に伝え了承を得る。 ・拒否があった場合は時間をずらして提供を行う。	
4	19	頻繁に面会に来て下さる家族との関係は深められているが、面会にあまり来られない方や行事等に参加されない家族との関係は深められていない。	家族との信頼関係を築く事が出来る。	・定期的に電話や手紙を送る事で積極的にアプローチしていく。 ・瓦版を通して入居者や施設の状況を知ってもらう。	
5	20	外出の機会が減ったことや、入居者への聞き取りが不十分なため、馴染みの場所や思い出の場所へ外出の支援が減っている。	家族の方にも協力して頂き、定期的に外出する事が出来る。	・月に一回は全員で出掛ける予定を立てる。 ・本人からの希望の聞き取りが難しい方は、家族より思い出の場所の聞き取りを行う。 ・馴染みの場所の写真を撮り、ホーム内で話をする機会を設ける。	

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。なお、挿入した際は、印字状態を必ず確認して下さい。

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

※ 「1 自己評価及び外部評価結果」を評価機関から受領した時点で、3「サービス評価の実施と活用状況(振り返り)」と併せて作成します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	プライバシーを損ねない声掛けを心がけているが、日々の関わりの中で、感情が出てしまうことや、職員一人一人の判断での対応となってしまう、職員全体で入居者への関わり方について話し合う機会があまり持てていない。	自らの関わりについて、それぞれが振り返り、気をつけなければいけない点をミーティングで話し合い、意識統一を図りながら、お互いに注意しあえるような環境を作る。	ミーティングで、プライバシーや自尊心等について考え、それぞれが、どういった場面で気をつけなければならないのかを振り返り、職員一人一人が考えながら、意識して関わりを持つ。	3ヶ月
2	37	自分の意志や希望を表現できる入居者に関しては、出来るだけその思いに添えるように努めているが、自らの意志を表現しにくい入居者に関しては、他入居者の意見を優先させてしまう場合がある。	入居者それぞれの状況や力量に合わせて一人ひとりの意志を汲み取れるよう工夫し、日々の生活から、笑顔や喜んでいる表情をくみ取り、個別的な援助を提供する。	写真やパンフレットなど、外部の情報をもっと取り寄せ、何がしたいのか、どんな事に現在興味を持っているのか、より引き出せるよう選択肢を増やし声掛けや関わり方も工夫する。	3ヶ月
3	21	予測できそうなトラブルに関しては未然に防ぐよう心掛けているものの、予期できないトラブルに関してプライドの高い入居者の場合なかなか興奮が収まらず、周囲の入居者が不愉快な思いや巻扱いになってしまうことがある。	常に職員が状況把握に努めトラブルがあった際は場所を変え、仲裁とそのフォローを職員間で連携して行う。入居者の性格やこれまでのトラブルの状況を確認する。	常に状況把握に努め(表情等気配り観察)不愉快になりそうな入居者の対応を迅速に行い、その後のフォローについても話し合う。	1ヶ月
4	35	災害時を想定し、外出の際に入居者誘導の順番や全員を誘導するのにどの程度の時間がかかるのか、シュミレーションを行っているものの、実際に起きた場合に不安が残る。	災害時、入居者全員が安全に避難できる方法について、シュミレーションを行い、災害時の必要物品について確認し、他部署も交えた職員との協力体制を築く。	物品がどこに何があるかの一覧表を作成し、実際に起こったときに確認できるようにする。また、ミーティング時にシュミレーションを行い、事前に誘導の順番等の確認や問題点を前職員が把握する。	3ヶ月
5	48	日々心掛けているものの、安全面を考慮してしまい、得意分野とする入居者にばかりに頼ってしまい、一人一人が日々張り合いのある生活を送れていないときがある。	アセスメントを見直し、入居者一人一人を見つめ直し、日々変化する入居者の状態を把握しながら、これまでの得意な役割や楽しみ事を継続しながら、新しい一面を探り、より張り合いや喜びのある生活が送れるよう支援する。	職員一人一人が状況を把握した上で、普段と違う働きかけを行い、新しい発見をしたときは職員の申し送りで伝え、今後の対応に反映させる。入居者一人一人が日々役割、楽しみ事が少しでも多くなるように職員間で意識を高める。	3ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。なお、挿入した際は、印字状態を必ず確認して下さい。